

1・2級に合計127人が挑戦

鉄筋組立て技能検定実技試験

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は2月11・12日の二日間にわたり、堺市美原区の竹中工務店西日本機材センターで「平成23年度後期・鉄筋組立て技能検定実技試験」を実施しました。今回は二日間で1級124人、2級3人の計127人が受検し、晴れの合格めざして難関に挑戦しました。

実技試験の課題は、曲げ加工した鉄筋を使用し、図面及び仕様に従い基礎・柱・基礎梁の取り合い部の鉄筋を組み立てるもので、保護帽と作業服に身を固め、ゼッケンを付けた受検者は真剣な表情で組立作業に取り組んでいました。試験の標準時間は1級が1時間40分、2級が1時間20分で、それぞれ30分と20分の延長が認められています（延長の場合、超過時間に応じて減点）。

これに対し、戸田裕雄副理事長を首席検定委員とする14人の検定委員・補佐委員は組み上がった鉄筋の配筋精度や仕上がり、結束もれなどについて厳正に審査していました。戸田首席検定委員は「事前に講習を行っていることもあり、未完成のものや結束もれも少なく全体的なレベルは上がっている」と感想を述べました。また、検定委員でもある岩田理事長は「登録基幹技能者や1級技能士の有資格者が、経審や総合評価方式の加点対象になったことで元請、下請、職人がそれぞれ資格に対する意識が変わってきている」とコメントし、「今後はこれら資格と人材確保をリンクさせる必要がある」との考えを示しました。試験会場には竹中工務店の中川亨・西日本機材センター主任、大林組の豊田正利・本店建築工事第二部品質管理課副主査、鹿島の北村浩一郎・関西支店建築部建築工事管理グループ長、愛媛県鉄筋業協同組合の吉岡通伸理事長らも見学に訪れました。

なお、今回の実技試験の合格発表は1月15日の施工図作成作業、1月22日の学科試験の結果と同じく3月13日に行われます。

岩田理事長と戸田副理事長を除く検定委員及び補佐委員は次の通りです（敬称略）。

田中勲（関西スチールフォーム）、原田浩一（近畿施設工業）、西岡義克（西岡鉄筋工業）、高岡宏（ヤマシタ）、又野吉史（又野鋼業）、恵谷信（恵谷鉄筋）、田村晃一（田村工業）、川崎隆志（川崎組）、富田勇（富田興業）、山村修一（関西スチールフォーム）、今村俊郎（吉岡工業）、川手竜一（戸田鉄筋）。

検定風景は、次ページ



